

■ 次世代イーサネットのコスト低減を実現する多重化技術

2013年（平成25年）

ネットワークコストを抑制する観点から収容スイッチの機能、及び長距離光伝送装置をアクセス収容装置（MC: Media Converter）に集約させた「多重化技術」を開発しました（図）。

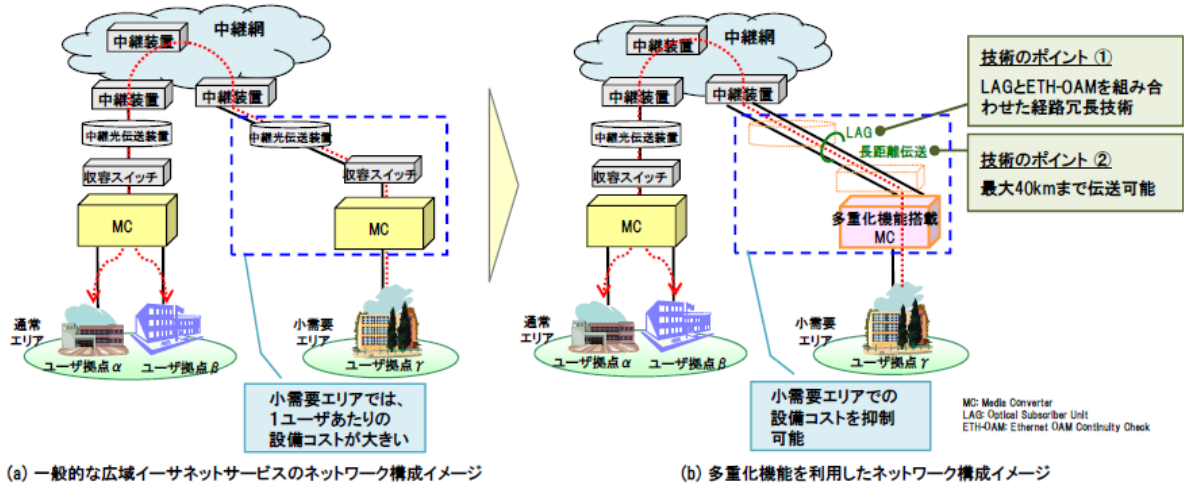


図 多重化技術の構成イメージ

本技術の主要機能は以下の二つです。

(1) 経路冗長化機能

ERPを採用した広域イーサネットサービス網に対応するため、LAG (Link Aggregation Group) とイーサネットを組み合わせた経路冗長機能を開発しました。これにより、リングトポロジを構成することなく、ERPと同等の信頼性を確保しました。

(1) 長距離伝送機能

中継光伝送装置を新設せずに長距離伝送を実現するために、シングルモードファイバで最大40kmまで伝送可能な長延化モジュール (ZX-SFP) にも対応しています。これによりユーザのロケーションと接続先の中継網の距離によって、最適なSFPモジュールを選択することが可能です。